

# ふかまちのまど

## みはら古今

市会議員 村上徹郎

本市は、瀬戸内海沿岸の中央部に位置し、古くから陸海の交通の要衝として栄えてきた。今から約四三〇年前小早川隆景は、この地の利を活かし三原城を築城、その後城下町として東西の町の整備と、新田の開発が行われ、今日の三原市の基礎が築かれた。

明治に入り山陽鉄道の開通、糸崎港が特別輸出港の指定をうけるなど交通拠点として近代交通の条件を加えていった。大正時代に入りトスコが進出、昭和七年に日本セメント、同九年には帝人が、同十八年には三菱重工と相次ぐ企業進出を見た。そのさ中、昭和十一年十一月十五日、二町四ヶ村が合併し市制を施行し、工業都市三原としてスタートすることとなったのであります。

戦後も工業都市として発展を続けたが、昭和五十年三月山陽新幹線三原駅停車を契機に市街地再開発事業を始めとする多くの大型プロジェクトを推進し、本土と四国島嶼部を結ぶ陸海の交通拠点の商工業都市として大きくその姿を変えてきた。

## これからの教育は

深学校長 山田義孝

国連では六十五才以上の人口が全人口の七%を越える社会を高齢化社会の基準としている。人生八十年といわれる現代社会では、かつての余生は第二の人生となった。

二十一世紀の教育は国際化や情報化と並んで必ず高齢化が重要な視点として掲げられるにちがいない。これまでの学校教育は、第一の人生に照準を合わせて行われてきた。「人格の完成」という理念も当然掲げられてはいるが、本音は近い将来の進学・就職が目標であったといってもよい。狭い意味での勉強だけにうちこんでいた人と、人間関係や地域・家庭での体験が豊かな人を比較すると、後者の方に第二の人生において「生きがい」の高い行き方をしている人が多いという調査研究もある。

更に平成三年七月山陽自動車道の開通が相次ぐなど国際化時代に対応できる陸・海・空・の結節した西日本的高速交通体系の要衝として新たな飛躍が期待されている。

こうした背景の中、平成七年四月に開校される県立保健福祉短期大学を中核として本市は、将来において中四国地方における保健・医療・福祉に関する人、物、情報の交流拠点情報発信拠点になることをめざしています。当深町もすべての取り組みにおくれないうちにいたしたいと思えます。皆さんと一丸となってがんばって参りませう。▲

## 深への思い

金重八重子

私が深へ転居した時、知人から異句同音に「ふかあ」と山奥へでも入り込んだように云われたものだった。

あれから二十年。日本列島開発の波に三原も御多分にもれず、随分と様変わりしてきた。そんな中で、変らない深の自然を嬉しく思う反面、現状でよいのだろうかと思念もした。この是非は論外として、開発の波は深町へも及ぶに至った。

昨年の十月十七日二十一時過ぎ、闇の中ウオーギング中の私の横を十数台のバスが往復。何事が起きたのかと呆気にとられたのだが、翌日それが如水館高校通学バスの試運行であり、第二の人生にも照準をあてた教育の必要性を表わしている。

もちろん人生は若い時の体験だけで決まるものではなく、耐えざる試練の連続であるが、その試練を乗り越える力は学校時代の豊かな体験によって培われるのではないだろうか。

人間は生涯学び続ける存在であり幼・小教育はその出発点としての大きな役割と責任をもっている。様々な体験や多くの人とのかわりの中で豊かな感性をもった子どもを育てていくため、学校という建物から地域社会にとび出して学ぶ教育を進めていきたいと考えている。皆様の力添えをいただければ幸いです。▲

あった事を知って、初めて如水館高校の移転を実感したのだった。それから三月十三日の学園橋開通式に係り身近になったのである。

九月一日からの授業開始に向けて七月二十五日から移転開始。人口九百人の深町が一挙に昼間人口一四四三(生徒一三三三教職員一三〇)の増加、また三原から十六台、尾道から三、四台、松永から一台のバスが乗り入れられるようだ。

建設中の県道尾道三原線の開通をも含めて、今深町は大きく胎動している。三原市の僻地的な存在であった深町を發展させる又とない機会のように思う。今一町民として願うことは学園との共存である。これから生ずるであろう課題を、深町と学園の發展の視野にたって対処していけたらと願っている。▲(筆者は女性会会長)

お悔み申し上げます

石井カメヨ様 八十五才 04・2・10

村上一二三様 八十七才 04・6・6

林 邦雄 様 七十七才 04・6・10

お知らせ

町内会連合会規約改正案が原案通り可決されました。

賛成 二二二

反対 一一

各種団体六月行事予定

★小学校

▼田植え0/4 ▼危険カ所に立て札を立てる0/12 ▼参観日0/13 ▼ボラ

ンティア祭り0/20

★女性会

▼親睦会 上0/24 中0/4 下0/3

▼一日旅行 三和町へ0/10

★尚寿会

▼老連GB会0/3 ▼信金GB会

0/8 ▼一泊旅行0/4 ▼下野先生を

招いての健康講座0/4

▼

落語に「聞くは一時の恥聞かぬ

席は一生の恥」というのがある。

自分の無知を他人に知られたくないため知ったふりをし、結果

として笑いや者になるという筋▼

解らぬ事を聞くことは誰でも愉快な

ことではない。しかし向上のために

は僻けられぬこと。▼世の中では

イが邪魔をしている人によく出会う。